

図書館友の会 ニュース

発行 岸和田市図書館友の会 《発行責任者 松谷 敬一》

2022年
10月号

No. 24

友の会「文学歴史散歩」(バスツアー)

みなかた くまくす
南方 熊楠 記念館 (和歌山県白浜町) を訪れます

日時：11月9日(水)

図書館(本館) 8:40 出発

南海岸和田駅東側 9:00 出発
(第1ゼミナール前)

「友の会」会員以外の方も大歓迎!



屋上展望デッキからの360度の展望は
素晴らしく、白浜では是非見ておきたい
隠れたスポットです。



南方熊楠は、和歌山県が生んだ博物学の巨星。植物学・菌類学者としてのみならず、民俗学の創始者です。

没後、遺族からそのいくつかの資料の寄贈を受け、南方熊楠の遺した偉大な業績と遺徳をしのびその文献、標本類、遺品等を永久保存し、一般に公開するとともに博物学の巨星を後世に伝え、学術振興と文化の進展を目的として昭和40年4月に開館しました。また、生きた粘菌を顕微鏡で常時見られるのはここだけです。

参加費：7,000円(入場料・昼食代等含む)当日お願いします。

前日及び当日キャンセルされた方は、半額徴収させていただきます。

定員：30名(申込先着順、10月30日締め切り)

申込：直接または電話(072-422-2142)で図書館本館へ。

★行程(中型バス利用)は4ページに掲載しています。昼食は「とれとれ市場」で海鮮丼です。食べられない方は、申込時にその旨伝えてください。

*当日バスツアーにお越しになる方は、図書館の駐車場への駐車はご遠慮ください。

*参加者は、マスク装着、事前の検温をしてご参加ください。

久米田寺・星まつりの背景—中世の星辰信仰と密教—



久米田寺では毎年、節分に厄払護摩祈願大法要（焚き上げ）が実施されます。この【星まつり】の背景についての講演会が、8月14日に八木市民センターで開催され、41名の方が参加されました。

内容がぎっしり詰まった講演に、参加者から多くの感想が…

講師の細田慈人氏（歴史館いずみさの・元学芸員）は、古代・中世における星辰信仰と密教が融合する久米田寺の独自の役割と、民衆社会への影響の視点から解説。盛りだくさんの内容で、大変好評でした。

参加者のアンケートにも、「内容がぎっしり詰まって充実した講演でした。」「久米田寺がとても重要なお寺であった事、九条家に関わっていた事、とても面白かった。先生のお話はとても面白く、もっと聞きたかった。」「中世に再興味を持ちました。」等々、多くの感想が寄せられました。

サ～、明日は図書館に行こう

細田先生の話は3時間よどみなく内容の深い講座でした。恐れ入りました。先生としてはもっとお話を続けたかったのではないかと察しましたが、聴講の皆様もお疲れになられたことと思います。（私の思い過ぎしれませぬね。）

古代の人々の自然崇拝から王権での自然信仰の在り方の変遷、その中に神祇信仰、陰陽道、密教等による星辰信仰へのつながり、祈祷、祭祀が行われ、だんだんと祭祀を行う目的へと拡大。星辰信仰とは何か、星の信仰理由は何か、どういう意味があるのか。星まつりの理由が、密教、修験道・宿曜道・陰陽道この中にあり。

表題「星まつり」が七夕ではないとわかっておりますが、私の中では星も月も人工衛星の光も、星を眺め上記の難しい話は横に置き、ロマンの空（世界平和の空）であってほしい。

以前どこかで聞いた話もありました。この年になるとうろ覚えで…。蟹守→掃守→加守の話と、奈良蟹満寺の話…どこか結びついているのかしら。和泉市聖神社で暦をつくっていた、うそ、ほんと？……等々

サ～、明日は図書館へ行こう。

図書館友の会 Y・N

内容の濃い講座、ぜひ続編もお願いしたい…

醤油に味噌に豚骨と美味しいラーメンが一気に三杯も出てきたような、内容の濃い講座。2時間予定が3時間も、それでいて飽きることのない講師の細田慈人氏の博識がほとばしるエネルギーなお話の数々。古代・中世を取り巻く宗教と信仰の関り、行政による信仰の政治的利用など、昔から深く絡みあっていたようで。民衆の心を捉える為の教えである信仰だけではなく、水や土木に関するすべての知識の集積地でもあった久米田寺。

そして九条家との関りは星辰信仰に基づく祈祷祭祀へ、そして今日の「久米田寺・星まつり」へと繋がっていくのですが、久米田寺の曼荼羅が出てきて更に面白くなるところで時間切れ。講談で言う「この続きは明晩にて」というぐらいまだまだ聞いていたい講座だったので、ぜひ続編お願いしたいもんですな。

図書館友の会 安井武昌

図書館友の会「詩の教室」公開講座

詩って何だろう？ ～詩の楽しみ方～



岸和田市図書館友の会「詩の教室」では公開講座をおこないます。「詩って何だろう？」というテーマで、講師がわかりやすくお話しします。詩に興味を持っている方、何か書いてみようかなと思っている方、気軽にご参加ください。

日時 12月1日(木) 午後1時30分～4時

(開場 午後1時)

場所 岸和田市立図書館本館3階視聴覚室

定員 10名(申込み先着順) 【参加費 無料】

《講師の倉橋健一先生(写真)が詩を紹介します》

詩人で文芸評論家の倉橋健一氏が、いくつかの詩作品を取り上げ、その味わい方をやさしく解説します。

《詩作品の合評をおこないます》

ご自分の詩作品を持参していただいてもかまいません。持ち寄った詩作品の合評をおこないます。テーマは自由です。原稿用紙に、題名・氏名・本文の順に書いてください。(パソコン使用の場合はA4用紙1～2枚程度)当日、コピーを15部用意してご持参ください。

※11月8日(火)より、図書館本館に直接、または電話(072-422-2142)でお申し込みください。

地名の秘密

②接骨木（にわとこ）

骨折したときにニワトコの木を煎じて湿布し手当をした？

栃木県那須塩原市にある地名。「郵便番号〒329-2807 那須塩原市接骨木（にわとこ）」と記載されている。ニワトコとはスイカズラ科の落葉低木。ニワトコの濃い煮汁を打撲や骨折した患部に塗って手当をしたことから、このような漢字があてがわれたといわれている。

永長（えいちょう）年間（1096～97）堀川天皇の御代、この地に上都賀郡（かみつがぐん）日光鉢石（にっこうはちいし）宿の浪人、大島監物が、新田を開墾した際、ニワトコの木を沢山植え、肥料木としたことから、「ニワトコ」という地名となったといわれている。

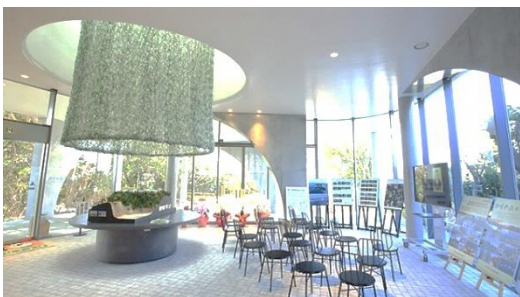
植物名接骨木（庭常）漢方薬として、乾燥させたこの植物の「花」を、煎じできた汁を利尿剤に、「茎や根っこ」「葉っぱ」は、打撲や骨折、リウマチなどに効果があるとされている。この木を黒焼きしたもの、もしくは枝を煮詰めてアメ状にしたものを骨折した患部に湿布剤として使用するため、庭に植えられた。

薬用として庭に常に植えられていることから「庭常（にわとこ）」と呼ばれるようになった。漢字表記「接骨木（セツコツボク）」は中国語に由来し、骨折の際湿布に使った薬草の意味。

今回は栃木県にある難読地名「接骨木」なんとよむ？の紹介でした。

（ニワトコ）とは読みづらいですねえ。

【資料】 47都道府県地名の謎と歴史 k k ベストセラーズ、その他インターネット栃木県の難読地名の読み方外 文責-文章教室 浦田榮二



「図書館友の会」文学歴史散歩

みなかた くまぐす

南方 熊楠 記念館 (写真はエントランス)

11月9日（水）《バスツアーの行程》

図書館本館前発 8:40 → 南海岸和田駅東側（第1ゼミナール前）発 9:00 → 「松原那智勝浦線/阪和自動車道」経由 → とれとれ市場着 10:50【昼食、海鮮丼(60分)】 11:50 発 → 南方熊楠記念館着 12:10【見学と付近散策（約120分）】同発 14:10 → 「松原那智勝浦線/阪和車道」経由 → 南海岸和田駅東側着 16:30 → 図書館本館前着 16:45